

Ⅲ ヒアリング調査からみた経営概況（企業の声）

【現在の景況感】

- 「景気は良くはないが極端に悪いわけでもない」（食料品製造）
- 「世界情勢が不安定であり、政府が言っているような楽観視はできない」（印刷業）
- 「受注増に対応するための人材の確保が難しい状況である」（プラスチック製品）
- 「海外にインフラ関連の製品を輸出している企業の中には、好調なところもある」（鋳鉄鋳物）
- 「普通だと言ってはいるが、全体的には良くない」（金属製品）
- 「中国経済の勢いがないので、業界全体的に重い雰囲気は漂っている」（電気機械器具）
- 「廃業した会社の仕事が回ってくるなどの状況で、前向きな仕事が少ない」（輸送用機械器具）
- 「良い方だとは思いますが、好況とまではいかない」（一般機械器具）
- 「好況とまでは言えないが、悪くはないと思う」（建設業）
- 「顧客の消費性向、動向に変化はみられない」（百貨店）
- 「上昇基調にはあるものの、弱さを含んでいる状態」（スーパー）
- 「景気が悪く消費は抑え気味」（商店街）
- 「バブル時の良い時と比べると悪いが、リーマンショック後の悪い時と比べると良い」（情報サービス）

【売上・採算】

- 「主要取引先からの受注動向は変化なく、前年並み」（食料品製造）
- 「従来からの注文も順調で、新規の受注も受けている」（プラスチック製品）
- 「既存の取引先からの受注が本来の水準に戻りつつある。また、新規取引先も増えた」（鋳鉄鋳物）
- 「中国のスマートフォン関連の仕事はそこそこ動いている」（電気機械器具）
- 「4月以降、売上げの前月比増加傾向が続いている」（輸送用機械器具）
- 「受注高は前年同期比で1割強増加し、盛り返している」（一般機械器具）
- 「受注全体では前年比1割程度減少の状態が続いている」（建設業）
- 「前期に比べれば売上げは回復したが、前年対比では厳しい」（百貨店）
- 「加工食品が好調である」（スーパー）
- 「客単価が下がっている」（商店街）

【今後の見通し】

- 「景気が良くなる要素も悪くなる要素もなく、現状維持の状況が続くのではないか」（食料品製造）
- 「投資のタイミングが難しい。どうしても保守的になってしまう」（印刷業）
- 「東京オリンピックに向けて新たな取引の話が来ており、今後、ビジネスチャンスが増えていくと予想」（プラスチック製品）
- 「東京オリンピックまでは仕事の増加が期待できるが、その後は仕事が減っていくだろう」（鋳鉄鋳物）
- 「「日差し」は見えてきているが、今は仕事の取り合いの状況」（金属製品）
- 「近年業態の移り変わりが激しく、時代の先追いが難しくなっている」（電気機械器具）
- 「取引数量が回復する見通しが無い、先行きはどちらとも言えない」（輸送用機械器具）
- 「良い方向の材料が少なく、良くなる当てがない」（一般機械器具）
- 「オリンピック需要は期待していない。逆に都内に人を持って行かれるのではないかと懸念している」（建設業）
- 「全体としては「微悪」の状態が続くと思う」（百貨店）
- 「悪い方向に進む感じはないが、伸びていく感じもしない。ただし、何か悪い要因があれば、一気に落ちる弱さを含んでいる」（スーパー）
- 「景気が変わる外的要素が思いつかない」（情報サービス）